

☆読書は心の栄養です。

読書をすると、①想像力が豊かになる、②知識や言葉の量が増える、③集中力や考える力が付くなど、さまざまな効果があります。また、読書によって言葉の量が増えることで「話す力」や「書く力」も伸びます。自分の好きな本を見つけ、本を読む習慣を身に付けることは心の栄養となります。今回のうちがく通信では先生方のおすすめの本(◎あらすじ ☆おすすめ理由)を紹介しています。

山形先生

ええところ
くすのき しげのり

◎背は低いし、力もよわい。100点なんて一回もとったことないあいちゃん。わたして、ええところひとつもないなあと思っているあいちゃんに友達のともちゃんが「あいちゃんの手はクラスで一番あったかい」ってええところを伝える。クラスみんながあいちゃんのあったかい手をさわらせてと集まってくる。みんなの手をあたためていたあいちゃんの手が冷たくなってしまった。

あいちゃんのええところはなくなってしまったのでしょうか・・・。

☆何かにつまずいたとき、自分に自信がなくなったときにぜひ、読んでください。あたたかい気持ちになりますよ。

吉村先生

りゅうがあります
ヨシタケ シンスケ

◎ハナをほじったり、ごはんをボロボロこぼしたり、ストローをかじったり・・・。

子ども達がついついしてしまうクセ、それにはちゃんとした「りゅう」があるんです。

☆図書室にもある「りんごかもしれない」「ぼくのニセモノをつくるには」を書かれたヨシタケ シンスケさんの絵本です。大人がついつい注意してしまう子どものクセにはそんな理由があるんですね。「そうそう!」とうなずきながら読むことのできるそんな1さつです。

花のたね 木の裏のちえ シリーズ
スマレとアリ 多田 多恵子

河田先生



◎スマレは自分で種を3メートル先まで飛ばします。その種にはアリのごちそうが付いています。そのおかげで、アリに種を遠くに運んでもらうことができるのです。このほかにも、花や実などの様々な工夫がしょうかいされています。

スマレとアリ、タンポポのわたげ、オナモミの実などシリーズ本を通して不思議な世界へ飛びこむことができますでしょう。

☆いつも目にしている何気ない花。その花にはそれぞれの工夫やふしぎがたくさんつまっています。このシリーズ本には、おどろくような花や実の工夫がしょうかいされており、自然への親しみがもてるのでおすすめです。

☆読みたい本が見つからなかったら・・・

子ども読書の情報館

検索

